

不妊症患者に対する中髎穴刺鍼と 陰部神経鍼通電の追試結果 第二報

○ 小松範明^{1,3)} 木津正義^{2,3)}

1) キュアーズ長町 2) 明生鍼灸院 3) 不妊鍼灸ネットワーク

発表者のCOI開示

発表内容に関連し発表者らが開示すべき
COI関係にある企業はありません

目的

不妊患者に対する中髎穴刺鍼及び陰部神経鍼通電の有用性は、これまでに本学会にて鈴木らが報告しており、当院も第64回大会にて報告している。

今回、生殖補助医療(ART)による不妊治療中の患者に対して基本治療に中髎穴刺鍼及び陰部神経鍼通電を併用した際の妊娠率を追試したので報告する。

対象

期間: 2013年7月1日～2016年8月31日 38ヶ月間

対象: ARTによる不妊治療中142名中、条件を満たした88名
のうち、経産婦8名を除いた**80名**

除外理由: 鍼灸治療が1ヶ月未満 : 24名

胚移植を行っていない : 20名

対象(n=80)

年 齢 37.6 ± 4.5 歳

過去移植回数 2.3 ± 2.5 回

基本的な鍼灸治療方法

使用鍼

材 質: ステンレス製ディスプレイザブル

太 さ: 0.12~0.3mm

手 技: 置鍼または単刺

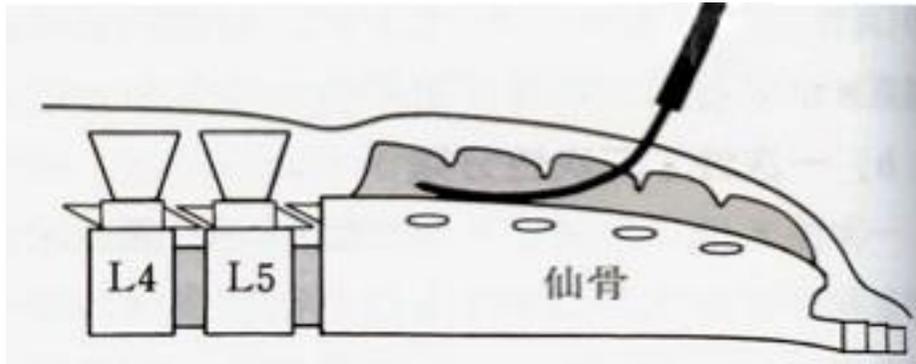
時 間: 60分間程度

主な刺鍼部位

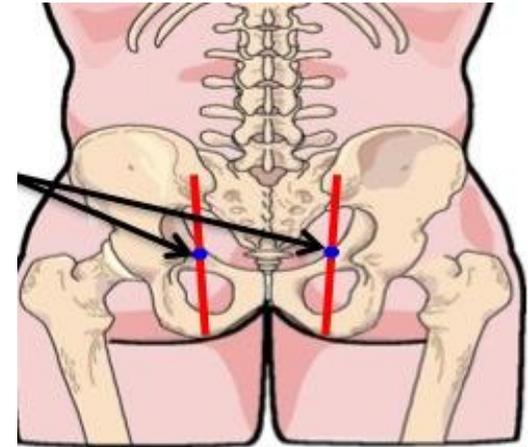
天柱、肩井、心兪、膈兪、脾兪、腎兪、大腸兪、次髎、
胞育、陰陵泉、三陰交、足三里、合谷

中髎穴刺鍼および陰部神経鍼通電について

中髎穴刺鍼



陰部神経鍼通電



中髎穴刺鍼ならびに陰部神経鍼通電の方法は明治国際医療大学臨床鍼灸学教室(泌尿器科系)の手技を参考に行っており、不妊鍼灸ネットワーク(現 JISRAM)の実技研修にて統一化されている。中髎穴刺鍼は主に胚移植に向けて子宮周囲の血流改善を目的とし、陰部神経鍼通電は採卵に向けて卵巣周囲の血流改善を目的に、週に1回のペースで行う。

結果

	妊娠 41名(51.3%)	非妊娠 39名(48.7%)	p値
年 齡	36.8 ± 4.8歳	38.4 ± 4.1歳	n.s
過去移植回数	2.0 ± 2.7回	2.5 ± 2.3回	n.s
鍼灸後移植回数	1.4 ± 0.7回	1.7 ± 1.0回	n.s
鍼灸治療回数	22.6 ± 21.2回	20.0 ± 12.1回	n.s

結果

35歳未満
(21名26周期)

35～39歳
(23名41周期)

40—42歳
(31名45周期)

43歳以上
(5名8周期)

移植あたりの
妊娠率

50.0%

26.8%

35.6%

12.5%

累積妊娠率

61.9%

47.8%

51.6%

20.0%

胚盤胞割合

73.1%

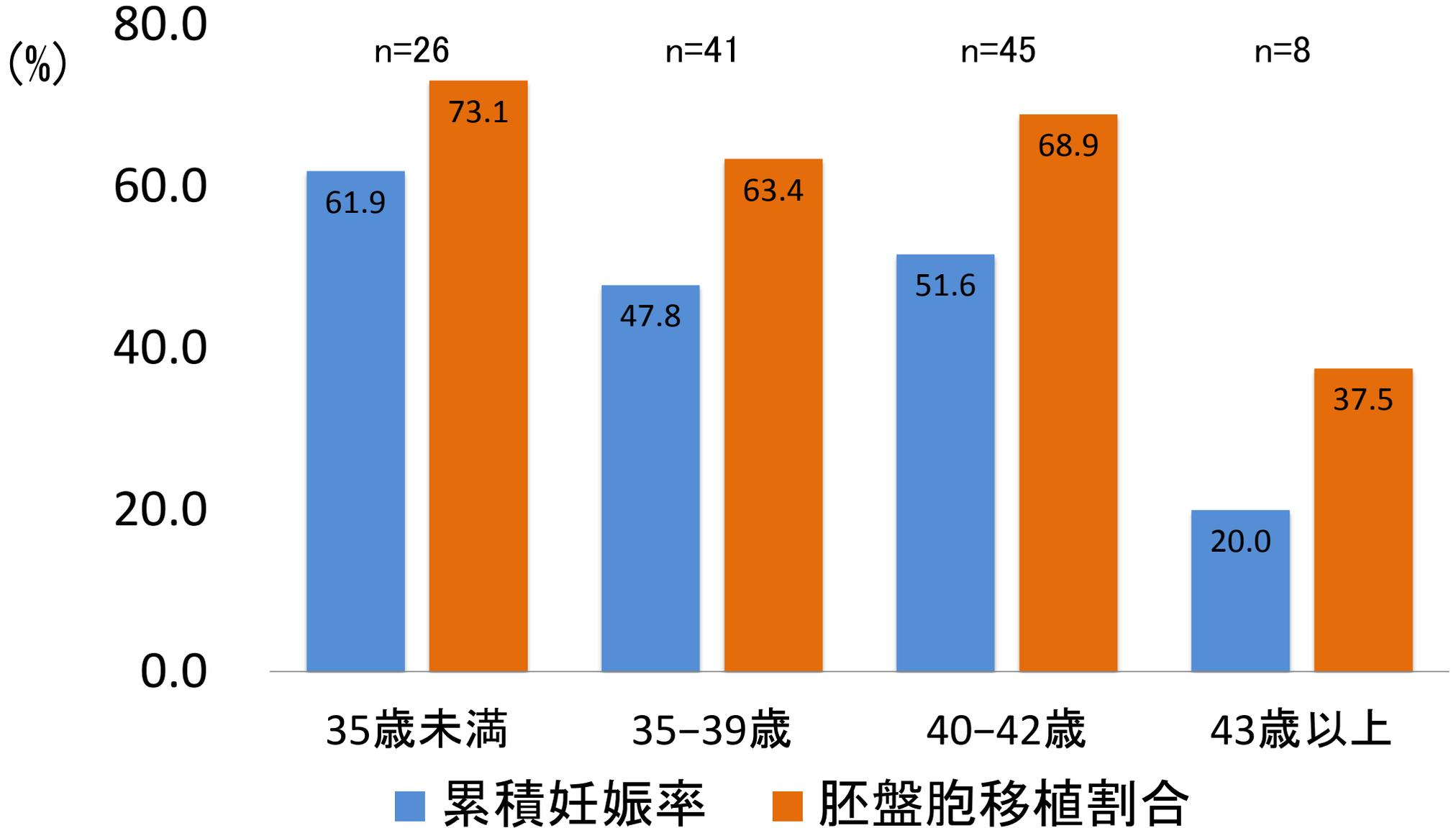
63.4%

68.9%

37.5%

結果

年齢別の累積妊娠率と胚盤胞移植割合



考察

不妊患者に対して中髎穴刺鍼及び陰部神経鍼通電を併用した鍼灸治療を行ったところ、約2回の移植までに半数を超える患者が妊娠に至った。

考察

一般的には妊娠率が低下してくると考えられる40歳から42歳において妊娠率が維持できたことは、鍼灸治療により卵巣機能が保たれ、胚盤胞移植が行えたことによって妊娠率の維持に結びついたのではないかと考える。

今後は無治療群との比較を検討していきたい。

結語

当院の不妊患者は鍼灸治療を約20回行い、胚移植を約2回行う間に半数以上が妊娠していた。

年齢別に妊娠率を比較したところ、40～42歳において妊娠率の減少は認められなかった。

鍼灸治療はARTにおける妊娠率の向上をはかるために有用な補助治療の一つであると推察された。